

令和七年二月現在から遡ること三十五年余。昭和から平成へと移り変わる新たな時代の始まりに当たり、全国的な吟詠会設立の要望が吟界有志からビクターに寄せられました。

中でも菅原雪翁先生、黒川哲泉先生にはその情熱がひと際強く、設立の第一歩として、先ずビクター吟友会近畿地区連絡局が発足。追って平成三年九月三日、関東各流各会の宗家会長を含めた賛同の先生方四十数名の出席により、関東連絡局設立が承認されました。

その間、全国各地に当吟友会組織が設立され、北海道地区（尾角鳳帥先生）、関東地区（渡邊吟神先生）、中部地区（飯田岳影先生）、近畿地区（八島紫海先生）、中国地区（河田神泉先生）、九州地区（吉田岳誠先生）の全国六連絡局での会員獲得と組織充実が図られました。

平成四年八月二十五日、ビクター吟友会創立に向けた第一回全国常務理事会が開かれ、会長にビクター出口順社長が就任。副会長に哲泉流日本吟詠協会黒川哲泉先生、雪山流日本吟詠学院菅原雪翁先生、詩吟朗詠錦城会山元錦城先生を選出。常務理事七名（連絡局六名と剣詩舞代表、新刀流山本晃正先生）を選出。本部署局長には日本詩吟学院光野岳延先生が就任。翌月九月十一日に第二回全国常務理事会が開かれ、会則の決定、入会金、年会費など会の方針と運営方法の詳細が決まり、詩吟・剣詩舞の普及活動に入りました。

ビクター吟友会設立総会と第一回全国吟剣詩舞コンクール決勝大会は、平成四年十一月二十三日九段会館に於いて開催。吟詠コンクール九十六番、剣舞十二番、詩舞十六番、計百二十四番に加え。構成吟『漢詩紀行旅情・望郷を詠う』会員発表でビクター吟友会は船出しました。さらに追って北陸地区、四国地区、沖縄地区（平成二十七年まで）が加わり、現在の八地区本部となっています。

設立二十五年を経た平成二十九年三月三十一日、日本ビクターの社名変更（JVCケンウッド）に従って『ビクター吟友会』から『日本伝統文化吟友会』に名称変更を行い、平成二十九年全国大会（中国・倉敷）から新名称での新たなスタートとなりました。

日本伝統文化吟友会の目的は、吟剣詩舞の普及発展と同時に会員相互の融和と親睦を図り、以て我国の芸術向上と文化進展に寄与することです。その実現のための事業として、

- 一、全国吟剣詩舞コンクール開催（新人発掘）
- 二、コンクール課題吟集制作（会員による録音記録）
- 三、新たな吟詠伴奏集制作
- 四、会員の発表会開催

## 五、その他事業 を行って参りました。

主事業である全国決勝コンクールは、平成五年度から令和四年度まで毎年開催（令和二年度、三年度は新型コロナウイルス感染拡大により中止）し、昨年まで全三十三回開催。また課題吟集は、カセットからCDまで全二十八タイトル、総録音曲数七百五十曲に及び、吟界に留まることなく日本伝統音楽界における歴大かつ貴重な録音記録となっています。さらに令和五年には全七百五十余の録音音源の全てから最も優れた百二十九題（漢詩九十六、短歌三十三）を厳選抽出した集大成となる「日本伝統文化吟友会名吟集成（CD四枚組）」を制作。日本伝統文化吟友会の歴史を会員各位の渾身の吟で迎える本名吟集成は、当吟友会の足跡を未来に残す空前絶後の永久保存版吟詠大集成であり、平成吟界の貴重な音源記録ともなっています。

現在、当吟友会は公益財団法人日本伝統文化振興財団（市橋雄二理事長）のご支援の下、全国八地区本部の協力を得て、総本部瀬畑至七代目事務局長が渾身の運営に当たっています。

幾世紀をも超えて人の心を揺さぶり続けてきた詩歌が持つ深遠な詩魂を、声と身体のみで表現する吟詠・剣詩舞は、数ある伝統芸能の根源に存する正しく日本人の心の芸術です。道徳、倫理をはじめとする心の問題が大きくクローズアップされている昨今、吟詠・剣詩舞の真髄に触れることは、世界に冠たる日本古来の優れた精神文化を取り戻す大きな糸口になるのではないのでしょうか。

末尾となりますが、平素よりご協力ご支援を賜り、本吟友会に多大なご尽力を下さいました諸先生方、並びに会員の皆様に心より厚く御礼を申し上げます。

